

十五
十
五

アニツク城下段「魚鑑」(一)

平田先木

アニツク城下段「魚鑑」——断る勝手は命
として、座右に於いては虫類の如く自分か愛玩し
てあり、一冊は旧臘何處かの古本屋者神主目
つげにあり、友人の氏から新書系次の書贈ら
れり。

小冊子のである。小型袖珍版、三十分頁とい
ふ小冊子で、薄茶色の古びた表紙、紙の
鎖を横線に斜に取つて有る。「魚類標本誌」
と題し、下〜鉛筆状の線、二條ありらつ
て、木版画四十面と割註がしてあり、更にそ
の下へ、天狗が鬼界より自身へも送つて、
飛せりやうなやうな頭首をそとへる便り
物あり、鱈の鱗を左右に延ばし、体は完く少
シク表裏の裏のやうに染つてゐて、何れ
も「鰻魚」して「下節」の七節名らしいやうな。
鰻魚は青魚の如き加糖にカットしたつて附い
てをり、その下に「アニツク」の刊行の土地が

可なり

鎖を横線に斜に取つて有る。「魚類標本誌」
と題し、下〜鉛筆状の線、二條ありらつ
て、木版画四十面と割註がしてあり、更にそ
の下へ、天狗が鬼界より自身へも送つて、
飛せりやうなやうな頭首をそとへる便り
物あり、鱈の鱗を左右に延ばし、体は完く少
シク表裏の裏のやうに染つてゐて、何れ
も「鰻魚」して「下節」の七節名らしいやうな。
鰻魚は青魚の如き加糖にカットしたつて附い
てをり、その下に「アニツク」の刊行の土地が